

■温室効果ガス削減の目標

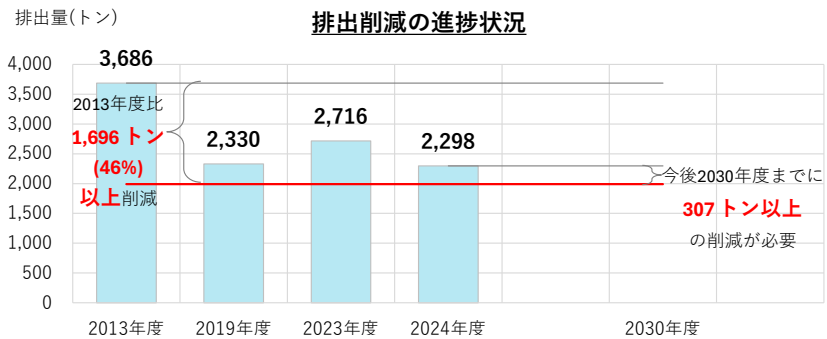
| | 削減目標 (政府目標値) |
|--------|--------------------------|
| 2030年度 | 2013年度比 46% (1,696トン) 以上 |
| 2050年度 | カーボンニュートラル |

■温室効果ガス排出量の推移

大分空港の2024年度の温室効果ガス排出量は、2023年度比418トン減少の2,298トンである。2030年度の削減目標 (2013年度比46%以上の削減) の達成には、今後307トンの削減が必要である。

| | 温室効果ガス排出量(トン) | | | |
|------|---------------|--------------|--------------|--------------|
| | 2013年度 | 2019年度 | 2023年度 | 2024年度 |
| 空港施設 | 3,330 | 1,998 | 2,392 | 2,189 |
| 空港車両 | 356 | 332 | 324 | 109 |
| 計 | 3,686 | 2,330 | 2,716 | 2,298 |

※小数点以下の端数処理により合計値が整合しないことがある



主に契約されている電力会社の排出係数… 2019年度：0.347、2023年度：0.475、2024年度：0.417
 空港全体の商用電力使用量(kWh) … 2019年度：509.5万、2023年度：487.4万、2024年度：506.3万

■2020～2024年度の温室効果ガス排出量の増減背景

大分空港では、2020～2024年度にかけて、施設整備は行われなかった。コロナ禍以降、空港の利用（航空機運航回数や旅客数）に回復がみられ、コロナ前の水準を上回っているほか、商用電力使用量が増加傾向にあるが、主に契約されている電力会社の排出係数は低下傾向（2023年度比）にあり、温室効果ガス排出量は減少傾向にある。

■2020年度～2024年度の脱炭素化施策の取組状況

| | |
|--------------|--|
| 空港施設に係る取組 | <ul style="list-style-type: none"> ➢ 建築施設照明のLED化や省エネルギー運用、建築施設の熱負荷低減、空調の高効率熱源の導入、空調・換気の省エネルギー運用等の取組が行われた。 ➢ 航空灯火のLED化の取組が行われた。 |
| 空港車両に係る取組 | <ul style="list-style-type: none"> ➢ 電動車の導入、バイオ燃料の活用が行われた。 |
| 再エネ導入促進に係る取組 | <ul style="list-style-type: none"> ➢ 再エネプランの電力（グリーン電力）の契約（従量電灯と低圧電力の2契約）が行われた。 |
| その他の取組 | (当該期間に新たに実施した取組に関する情報なし) |